

## 平成 21 年度第 1 回 被服学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 21 年 7 月 11 日(土) 午後 2 時から午後 4 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：高部委員長、山口委員、伊佐治委員、江川委員  
井端事務局長、森下、恩田

### IV. 検討事項

#### 1. 検討事項

##### (1) 被服学の学士力の基礎的な部分に関する件

先ず、分野別の学習到達目標、コア・カリキュラムのイメージ、到達度の測定方法等を 11 月にはインターネットで公開することの前提に立って、具体的な質保証を行う方法論を、宿題と英国等の方式の検証を行い、日本に相応した被服学における学士力の基礎的な部分に関する審議に入る。

- ・基礎能力としてこれだけは持って欲しい学士力の中には知識、技能を身に付けるというより、ものを判断する力、調査する力、提案する力やものを創造する能力を養成することも大切である。
- ・大学が責任を持って社会に送り出すことの出来る人材の育成をしているという大学の学士力を明確にする必要がある。
- ・被服に関して身に付けた表現する能力を、具体的に測定するためには基礎的な能力を抑えていないと判断できない。
- ・基礎的な能力とは、身に付ける知識、能力、教授法、学習法、深さ等なにを以て評価するのか。
- ・被服を学ぶことによって、プランニングをして、ニーズを把握することによって企画設計を行い、維持管理をして生活を向上させる。そのことが問題解決能力を高め基礎能力になるのではないか。

以上の審議の結果、被服学教育における学士力として以下の案を提案する

1. 被服の歴史・文化や、被服の社会的、保健衛生的役割を理解し、被服の着用や被服造形などによるイメージや感性の表現ができる能力を身に付けている。
2. 人体を理解・把握し、人体と被服との関係や被服構造を知り、被服の構成力を身につけ被服パターン設計に活用できる能力を身に付けている。
3. 被服材料の特性を理解し、被服設計、着用評価、維持管理ができる能力を身に付けている。

4. 繊維、アパレル産業における企画設計、生産、流通の仕組みや周辺領域の産業を理解し、社会ニーズの調査・分析方法を身に付けている。
5. 被服の生産、流通、消費における環境問題を理解し、環境汚染、省資源的ライフスタイルを意識し、生活の質の向上を考えることが出来る能力を身に付けている。

以上、案としてはまとめたが、今回ではまとめきれない基礎的な部分を次回さらに審議することとなった。また次回までに基礎になるカリキュラム案のたたき台をつくって行く。

## 2. 次回第2回被服学委員会

開催日時 平成21年9月4日（金） 14時～16時  
場 所 私立大学情報教育協会事務局会議室

以上